



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月4日

上場会社名 株式会社 あみやき亭
 コード番号 2753 URL <http://www.amiyakitei.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部副本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名
 TEL 0568-32-8800

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	16,673	△30.5	△1,622	—	△1,231	—	△1,249	—
2020年3月期第3四半期	23,978	0.4	1,499	△28.2	1,554	△27.9	879	△34.7

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △1,249百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 879百万円 (△34.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△182.41	—
2020年3月期第3四半期	128.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	24,760	19,902	80.4
2020年3月期	25,604	21,493	83.9

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 19,902百万円 2020年3月期 21,493百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2021年3月期	—	0.00	—		
2021年3月期(予想)				—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は定款において期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定とさせていただきます。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

今期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響を現段階において合理的に算定することが困難なことから未定としております。当社グループの店舗では、新型コロナウイルス感染症は業績に大きな影響を与えます。業績予想につきましては、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	6,848,800 株	2020年3月期	6,848,800 株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	364 株	2020年3月期	324 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	6,848,441 株	2020年3月期3Q	6,848,476 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月に政府より緊急事態宣言が発出されたことにより、経済活動の制限により景気が急速に悪化したものの、その後の緊急事態宣言解除を受け、徐々に経済活動の再開の動きが見られました。しかしながら、その後も断続的に感染が再拡大するなど、先行きは極めて厳しく不透明な状況で推移いたしました。

当外食業界におきましては、10月より政府のGo To Eatキャンペーン事業により一時的に客足が戻りつつありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出自粛や自治体からの度重なる営業時間短縮要請、インバウンド需要の消失等により、極めて厳しい経営環境となりました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として、お客様及び従業員の安心・安全を第一に考えた衛生管理に万全を期すとともに、パート・アルバイトを含む従業員の雇用を確保してまいりました。また、既存商品のブラッシュアップを行い、提供商品の品質向上に取り組むとともに、毎月厳選した商品による各種フェアを行い、次に繋がる取り組みを行ってまいりました。

店舗数につきましては、新規出店3店舗（焼肉事業1店舗、その他事業2店舗）しましたが、8店舗退店（焼肉事業3店舗、焼鳥事業3店舗、その他事業2店舗）したため、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は264店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、16,673百万円（前年同期比30.5%減）、営業損失1,622百万円（前年同期営業利益1,499百万円）、経常損失1,231百万円（前年同期経常利益1,554百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1,249百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益879百万円）と極めて厳しいものとなりました。

<焼肉事業>

焼肉事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、180店舗であります。内訳は、あみやき亭109店舗、どんどん22店舗、かるび家2店舗、スエヒロ館21店舗、ほるとん屋14店舗、ブラックホール5店舗、ホルモン青木他7店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上の徹底的にこだわり「お客様にとって価値観・満足感のある商品」を提供するとともに、接客・サービス向上に向け「新しい生活様式」に沿ったクレンネス、キッチン・ホールのオペレーション等基本の徹底を図るなどの既存店強化に努めてまいりました。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する焼肉「スエヒロ館」につきましては、「スエヒロ」ブランドとの知名度と「食肉の専門集団」である強みを生かした和牛商品を「チェーン店価格」で提供するなどグループシナジーを発揮した展開をしております。

また、株式会社アクトグループが経営する焼肉業態へ当社より焼肉食材を供給し、一層の品質向上に努めてまいりました。

株式会社杉江商事が運営する「ホルモン青木」をはじめとしたホルモン焼店につきましては、当社の「食肉の専門集団」の強みを活かしたコスト見直しを実施するとともにブランドの知名度を活かした展開を行っております。

以上の結果、焼肉事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、12,937百万円（前年同期比28.6%減）となりました。

<焼鳥事業>

焼鳥事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、52店舗であります。

焼鳥事業は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」であります。

焼鳥事業におきまして、焼きの技術向上に努め、「美味しくて、安い」焼鳥や釜めしの品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって価値観・満足感のある商品」の提供をするとともに、接客・サービス向上に向け、基本の徹底を図るなどの既存店強化に努めてまいりました。

以上の結果、焼鳥事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,834百万円（前年同期比33.5%減）となりました。

<その他の事業>

その他の事業の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、32店舗であります。

内訳は、当社が経営するレストランの「ハンバーグ&ステーキレストランあみやき亭」2店舗、株式会社スエヒロレストランシステムが経営するレストランの「スエヒロ館」19店舗、居酒屋「楽市」3店舗と株式会社アクトグループが経営する寿司業態の「すしまみれ」4店舗、ダイニング3店舗、イタリアンレストラン1店舗であります。

「ハンバーグ&ステーキレストランあみやき亭」は、美味しい国産牛肉のステーキ、ハンバーグをお値打ち価格にてご提供する本格的ディナーレストランとして、引き続き品質向上やお客様の立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

レストランの「スエヒロ館」につきましては、スエヒロブランドを活かしつつ、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした「100%国産牛ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの専門店として、引き続き品質の向上に努めてまいりました。

居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに商品の品質向上やお客様の立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

株式会社アクトグループでは、経営する寿司業態、ダイニング業態、イタリアン業態ともに快適な空間で食事を楽しんで頂くことを目指しております。また、寿司業態では各店舗で行っている鮮魚の仕入れおよびカットをセントラルキッチンに一部移行するなど業務の効率化ならびにコストダウンを図るとともに全国各地の産地直送鮮魚をお値打ち価格で提供するなどお客様満足度の極大化に努めております。

以上の結果、その他の事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は1,904百万円（前年同期比38.8%減）となりました。

なお、各事業の売上高については実績ベースにおいて記載しており、連結売上高に含まれておりますポイント引当金の影響を考慮しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産額は、24,760百万円となり、前連結会計年度末と比較し、844百万円減少しました。主な要因は現金及び預金の減少によるものです。

負債総額は、4,857百万円となり、前連結会計年度末と比較し、746百万円増加いたしました。主な要因は短期借入金の増加によるものです。

純資産額は、19,902百万円となり、前連結会計年度末と比較し、1,591百万円減少いたしました。主な要因は利益剰余金の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今期の連結業績予想につきましては、首都圏1都3県の各知事が政府に緊急事態宣言の発出を要請したことによる休業・営業時間短縮等極めて不透明な要因等や今後も新型コロナウイルス感染症の断続的な拡大が繰り返され、その影響は2021年3月期末まで継続するものと想定しております。

従って現時点において合理的に連結業績予想を算定することが困難なことから、2021年3月期の業績予想は引き続き未定としております。

なお、連結業績予想につきましては、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,498	9,188
預け金	328	446
売掛金	12	17
商品及び製品	76	75
原材料及び貯蔵品	243	204
その他	911	1,421
流動資産合計	12,070	11,353
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,154	4,643
構築物(純額)	307	278
機械及び装置(純額)	326	287
車両運搬具(純額)	9	7
工具、器具及び備品(純額)	154	118
土地	2,709	2,709
建設仮勘定	18	5
有形固定資産合計	8,680	8,050
無形固定資産		
ソフトウェア	26	21
のれん	878	819
その他	27	21
無形固定資産合計	932	863
投資その他の資産		
投資有価証券	5	5
長期貸付金	349	353
繰延税金資産	954	1,517
差入保証金	1,595	1,595
投資不動産	304	302
その他	712	719
投資その他の資産合計	3,921	4,492
固定資産合計	13,534	13,407
資産合計	25,604	24,760

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,003	913
短期借入金	—	300
1年内返済予定の長期借入金	—	20
未払金及び未払費用	1,222	1,291
未払法人税等	132	198
賞与引当金	138	96
役員賞与引当金	—	22
株主優待引当金	7	14
ポイント引当金	93	96
その他	732	907
流動負債合計	3,329	3,862
固定負債		
長期借入金	—	109
リース債務	248	349
退職給付に係る負債	5	5
資産除去債務	468	467
その他	57	63
固定負債合計	781	995
負債合計	4,110	4,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	16,594	15,003
自己株式	△1	△1
株主資本合計	21,493	19,902
純資産合計	21,493	19,902
負債純資産合計	25,604	24,760

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	23,978	16,673
売上原価	8,940	6,255
売上総利益	15,037	10,417
販売費及び一般管理費	13,538	12,040
営業利益又は営業損失(△)	1,499	△1,622
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	1	—
受取賃貸料	27	42
助成金収入	—	333
協賛金収入	8	7
その他	22	15
営業外収益合計	63	401
営業外費用		
不動産賃貸費用	2	2
支払利息	0	0
匿名組合投資損失	6	7
その他	0	—
営業外費用合計	8	10
経常利益又は経常損失(△)	1,554	△1,231
特別利益		
固定資産売却益	0	1
受取保険金	4	1
受取補償金	3	—
特別利益合計	8	2
特別損失		
固定資産除却損	36	8
減損損失	108	491
その他	—	2
特別損失合計	145	502
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,417	△1,731
法人税、住民税及び事業税	511	80
法人税等調整額	25	△563
法人税等合計	537	△482
四半期純利益又は四半期純損失(△)	879	△1,249
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	879	△1,249

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	879	△1,249
四半期包括利益	879	△1,249
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	879	△1,249

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。